

## 第一回宮城県震災復興会議 メモ

東京大学大学院工学系研究科教授 石川 幹子

### 1. 震災復興グランドデザインの策定

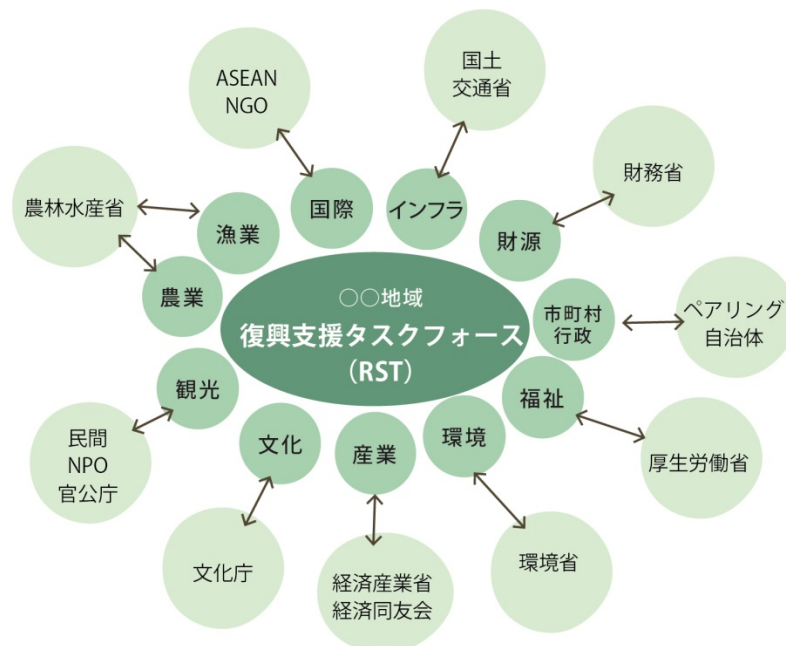
震災後50日を経過し、いますぐ、行うべきことは、地域の 実情を踏まえた  
詳細な「震災復興グランドデザイン」の策定である。目標を地域・県・国が共有し、  
具体的なアクション・プログラムをつくることが重要。

(事例：岩沼市)

### 2. 復興支援タスクフォースの創設

復興のエンジンとなる行政・企業・大学・NPOの横断型の 「復興支援タスクフォ  
ース」をつくることを、国に要請する。

1. 復興にあたり、地域的に共通の課題を有する複数（もしくは、単独の市町村）を、  
支援する母体をつくりだす。
2. 法による、臨時行政組織の形成。財源の担保。
3. 3年を目途とする時限立法
4. システム：自治体の長をヘッドとする、復興まちづくり支援組織をインフラ、財  
政、福祉、住宅、産業、NPOなど、総合的分野についてつくり、共通の復興目  
標にむかって進む、推進母体とする。



### 3. 東北地方の風土を活かした 21 世紀型の津波防災インフラの整備 「津波除け千年松山——松島方式」

津波災害に対して、安全な県土の再構築におけるリーディング・プロジェクトに速やかに着手する。(例：津波除け千年松山——松島方式)。国際社会への拠点として、仙台市から仙台空港周辺地域は、最重要地域。安全な県土の再構築は、宮城県のみならず、東京、名古屋などの大規模災害発生時に対するリダンダンシーの確保として、国家的プロジェクトである。将来、北上運河から松島、そして貞山堀に至る地域が世界遺産となることを目標とする。



#### 4. 復興ビジョンの提案

### 「流域圏を基盤とする先端自然エネルギー・田園都市」

